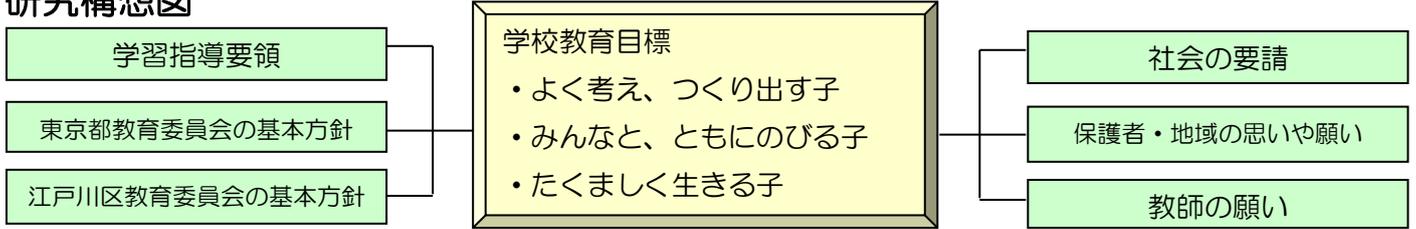


校内研究

研究構想図



【研究主題】

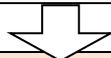
「主体的に学習する児童の育成
～ユニバーサルデザインの視点による算数科の授業づくり～」

児童の実態

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> 楽しく学習に取り組むことができている。 自分の考えを人に伝えることが難しい。 問題の意味を理解できない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組み、できる楽しさを感じているが、友達の考え方を聞くことや自分の考え方をすすんで発表することに課題がある。 課題の解決方法を考えるための基礎基本（既習内容）の定着が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組み、自力で問題を解決する楽しさを感じているが、前学年までの基本事項の定着率は75%にとどまっている。 既習内容を使って問題を解決しようとする意識はあるものの、自分の考えを他者にすすんで伝えたり、根拠を明確にして説明したりする力が弱い。



目指す児童像	低学年	中学年	高学年
	自分の考えを分かりやすく表現したり伝えたりすることができる子		
		友達と考えを伝え合い、自分の考えとの違いや共通点に気づき認め合うことができる子	
			友達と自分の考えを比較し、よりよい問題解決の方法を追究することができる子



研究の仮説

自力解決や検討場面で、数学的な見方・考え方に着目して捉えることができれば、すすんで自分の考えを伝えることができ、自信をもって主体的に学習するようになるのではないかと。

主題に迫るための具体的な手立て

ユニバーサルデザイン化の5視点・江戸川区算数授業スタンダード

数学的な見方・考え方の明確化

問題を解くときの着眼点

自力解決の工夫

- 既習事項を活用するための掲示
- 児童が解きたくなる問題提示
- 考えるべきポイントの焦点化

論理をまとめたり、高めたりするための視点

検討場面の工夫

- 取り上げる考え方の内容の選択
- 検討の中心におく図等の提示
- 話し合いの視点の明確化